

HITACHI

日立ルームエアコン システムマルチ 室内ユニット据付説明書



型式

RAMJ-25CS RAMJ-36CS
RAMJ-28CS RAMJ-40CS



家庭用エアコンにはGWP（地球温暖化係数）が2090のフロン類（R410A）が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等に当たってはフロン類の回収が必要です。

- 据付工事前にお読みになり正しく据え付けてください。
- お客さまに操作方法を取扱説明書でよく説明してください。
- この製品は日本国内家庭用です。電源電圧や電源周波数の異なる海外では使用できません。

据付情報 ● 接続芯数が3芯になりました。

据付工事に必要な工具（◎印はR410A専用工具）

- ⊕ ⊙ ドライバー ● 巻き尺 ● ナイフ ● ペンチ
- パイプカッター ● 六角棒スパナ(呼4) ● Pカッター
- ホールコアドリル(φ65~80mm) ● 真空ポンプ
- スパナまたは、モンキーレンチ ● トルクレンチ
- ポンプアダプタ ● フレアリングツール ● ガス漏れ検知器
- マニホールドバルブ ● チャージホース ● ポリシン

安全上のご注意 必ずお守りください。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った据え付け方をしていたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷を負うおそれがある」内容です。



注意

この表示の欄は、「軽傷を負うおそれまたは物的損害を生じるおそれがある」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

●据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この据付説明書は、取扱説明書とともにお客様が保存頂くように依頼してください。

警告

●据付工事は、お買い上げの販売店または、専門業者に依頼する
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災などの原因になります。



●据付工事は、この据付説明書に従って確実にを行う
据え付けに不備があると、水漏れや感電・火災などの原因になります。



●据え付けは、重量に十分耐える所で確実にを行う
強度不足や取り付けが不完全な場合は、室内外機の落下により、けがの原因になります。



●電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する
電気回路容量不足や施工不備があると、感電や火災の原因になります。



●接続ケーブルの配線は、途中接続やより線の使用はせず直径2mmの単線を使用し確実に接続する
端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
接続や固定が不安定な場合は、故障や発熱・火災の原因になります。



●設置工事部品は、必ず付属部品及び指定の部品（別売部品等）を使用する
当社指定部品を使用しないと、室内外機の落下・水漏れ・感電・火災および運転音や振動が大きくなる原因になります。



●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外の空気などを混入させない
空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。



●指定冷媒以外は使用（冷媒補充・入替え）しない
機器の故障や破裂、けがなどの原因になります。



●配管・フレアナットは、必ずR410A指定のものを使用する
破裂やけがなどの原因になります。



●フレアナットはトルクレンチを使用し、指定のトルクで締め付ける
フレアナットを締め付け過ぎると、長期経過後フレアナットが割れて冷媒漏れの原因になります。



警告

●作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気を行う
冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。



●設置工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。



●アース（接地）を確実にを行う
アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しない
アース（接地）が不確実な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になります。



●据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける
冷媒配管が取り付けられない状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧となり、破裂・けがなどの原因になります。



●冷媒回収（ポンプダウン）作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する
圧縮機を運転したまま、冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧となり、破裂・けがなどの原因になります。



●接続配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取り付ける
カバーの取り付けが不完全な場合は、端子接続部の感電や発熱・火災の原因になります。



注意

●設置場所によっては漏電遮断器を取り付ける
漏電遮断器が取り付けられていないと、感電の原因になります。



●可燃性ガスの漏れるおそれのある場所へは設置しない
万一、ガスが漏れて室内外機の周囲にたまると、発火の原因になります。



●排水工事は、据付説明書に従って、確実に排水するよう配管を行う
不確実な場合は、屋内に浸水し家財などを濡らす原因になります。



据付場所の選定

(下記の点に注意し、お客さまの同意を得て据え付けてください。)

室内機

警告

- 本体を十分ささえられ、振動が出ない、強度のあるところに据え付ける

注意

- 近くに熱の発生がなく、吹出口付近をふさがないところ
- ドレン排水が容易にでき、室外機と配管接続ができる場所
- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所や、蒸気・油煙などの発生しないところ
引火や爆発、樹脂の劣化や破損のおそれがあります。
- 室内機およびリモコンはテレビやラジオから1m以上離す
画像の乱れや雑音が入ることがあります。
- 高周波機器、高出力の無線機器などからはできるだけ離す
エアコンが誤動作する場合があります。
- 電子点灯形の照明器具がある場合は、受信距離が短くなることもあり、
場合によっては信号を受け付けられないことがあります

室内機(吹出口)を火災報知器から1.5m以上離して据え付けてください。

番号	付属部品	員数
①	リモコンホルダー	1
②	乾電池(単4)	2
③	リモコンホルダー固定ねじ	2
④	フレア継手断熱	1
⑤	結束バンド	2
⑥	リモコン	1
⑦	タッピンねじ	4
⑧	ドレンホース	1
⑨	ポリエチホーム	1

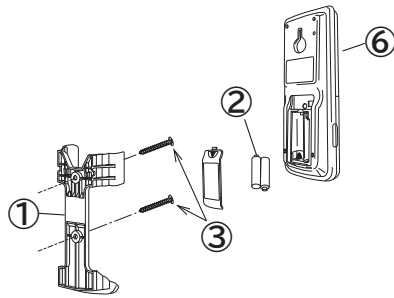
室内機据付図

すき間がないよう確実にシールしてください。

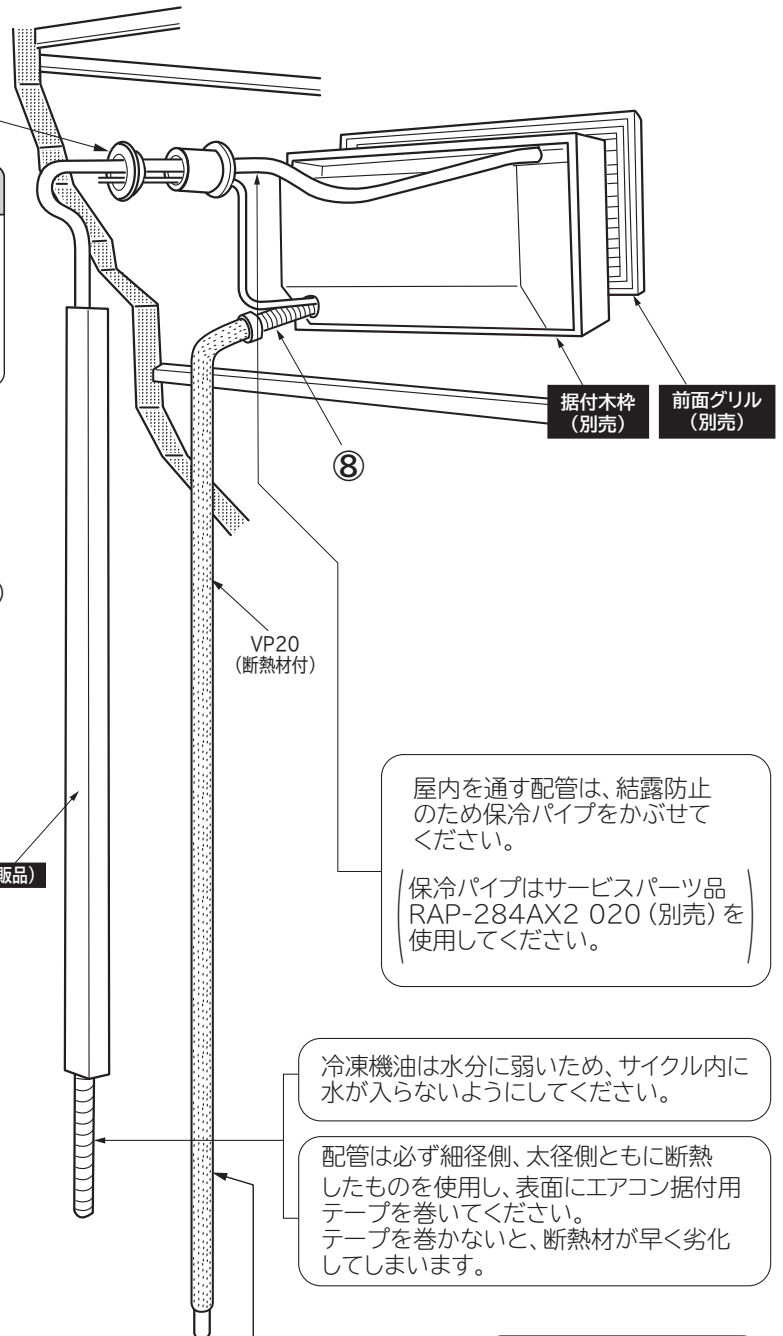
別売品

- 前面グリル RAJ-FGF1 (木目) (ホワイト)
- RAJ-FGF2 (木目)
- RAJ-FGF3K (木目)
- 据付木枠 RAJ-WFF1
- 取付金具 RAJ-TKF (据付木枠を使う時は不要)

※別売品は純正のものをご使用ください。



配管カバー(市販品)



屋内を通す配管は、結露防止のため保冷パイプをかぶせてください。

(保冷パイプはサービスパーツ品 RAP-284AX2 020 (別売) を使用してください。)

冷凍機油は水分に弱いため、サイクル内に水が入らないようにしてください。

配管は必ず細径側、太径側ともに断熱したものを使用し、表面にエアコン据付用テープを巻いてください。テープを巻かないと、断熱材が早く劣化してしまいます。

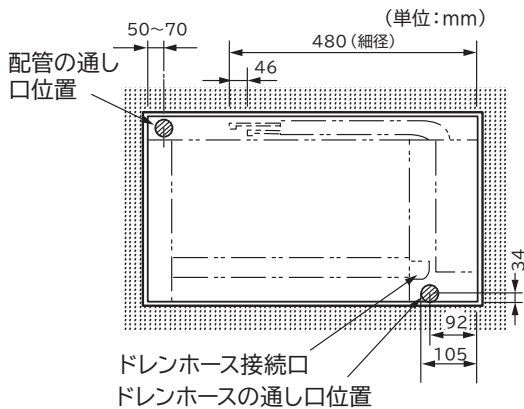
ドレン配管
別途工事となります。
屋内部は結露防止のため断熱してください。

室外機

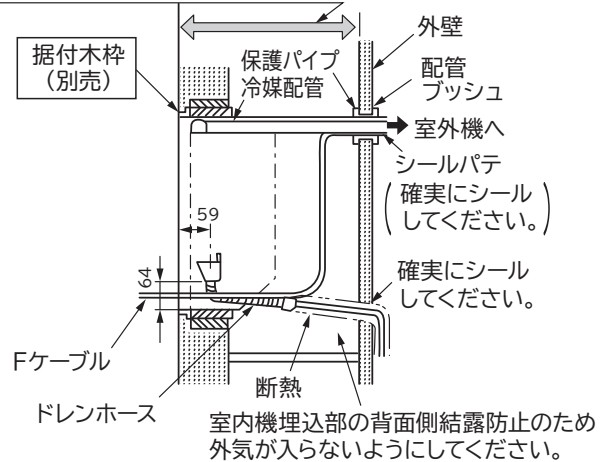
- 室内機と室外機の「高低差」および「配管長さ」は、室外機に同梱されている据付説明書に従ってください。
- 室外機についての説明は、室外機に同梱されている据付説明書をごらんください。

室内機の据え付け

1 室内機据え付け概要



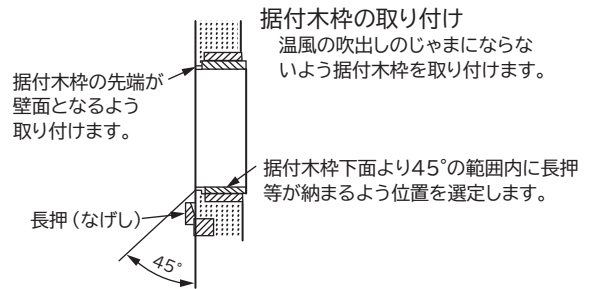
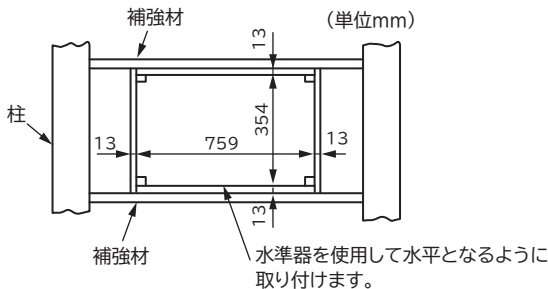
配管直出し（室内機背面を通さない）のとき … 215mm以上
配管を室内機背面に通すとき …………… 360mm以上



2 室内機据え付け前の準備

据付木枠の設置

- 据付木枠は柱等重量を支える部材に補強材を通して固定してください。（強度が不足していると落下や騒音、振動の問題が生じることがあります。）



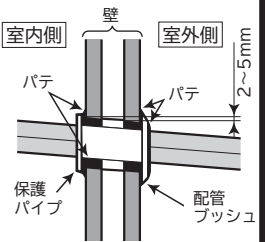
壁穴あけおよび保護パイプの取り付け



警告

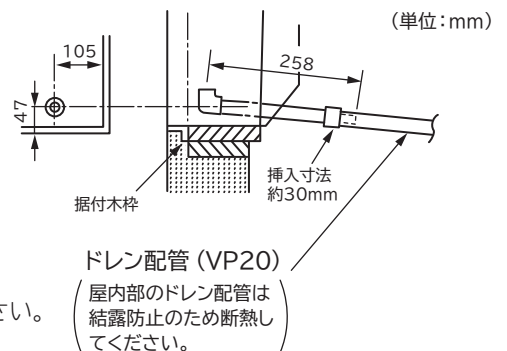
- **保護パイプは必ず使用する**
接続ケーブルが壁の中のメタルラスに接触したり、壁が中空の場合、ねずみにかじられたりして感電や火災の原因となります。
- **エアコン据付用パテで完全にシールする**
壁内や室外の高温空気が室内に浸入し露たれの原因になります。また壁内や室外の臭いが室内に浸入する原因となります。

- $\phi 65$ mmの穴を外側へ下がりぎみにあけます。
- 保護パイプを壁の厚さに合わせ切断し壁穴に通します。
- 雨水や外気の浸入等がないようエアコン据付用パテで完全にシールして配管ブッシュを付けます。



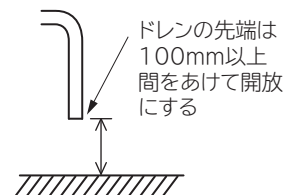
ドレン配管

- ドレン配管は、市販の硬質塩ビパイプVP20（外径26mm）を使用してください。
- 屋内にあるドレン配管には、必ず市販の断熱材（厚さ10mm以上）を巻いて断熱してください。
- ドレン配管は、ドレン水が途中で溜らずにスムーズに流れるよう、下り勾配（1/25~1/100）とし、途中山越えやトラップを作らないように吊り金具などで固定してください。
- ドレン配管の外壁との貫通部は必ずシールしてください。
- 本機にドレンホース（接続口外径20mm長さ258mm）が付属していますので右図位置までドレン配管を準備してください。
- ドレンホースの抜け防止のためドレンホースに力がかからないように固定してください。



⚠ 注意

- ドレン工事は、確実に排水できるように配管し、必ず排水の確認を行う
確認を怠ると、水垂れとなることがあります。
- ドレン配管は床面より100mm以上高い位置で切断する
エアロックによる水漏れや異物の詰まり等の原因となることがあります。
- 下図のような不具合がないことを確認する
ドレン詰まりをおこし、水垂れとなります。
- ドレン配管は1/25~1/100の勾配をとること
- 浄化槽等、腐食性ガス（硫黄、アンモニア等）が発生する場所にドレンホースを導かない
腐食性ガスがドレンホースから室内に逆流し、銅配管を腐食させたり、室内の異臭の原因となることがあります。
- 室内機のドレン配管は、室外機のバルブカバーへ導かない
使用条件により、配管バルブカバーより水垂れの恐れがあります。

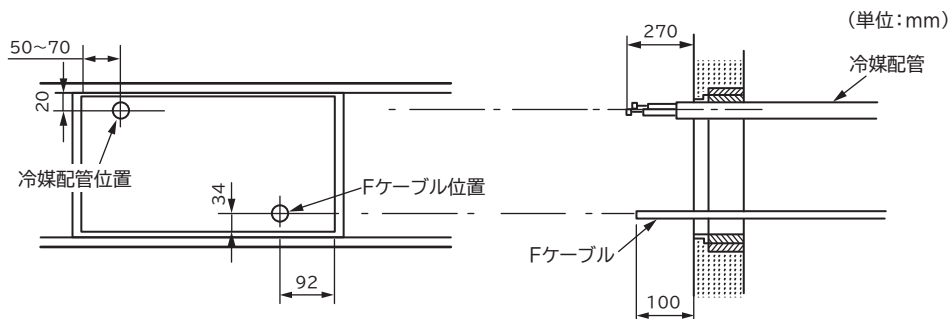


●このような据え付けはしないでください。



配管およびFケーブルの設置

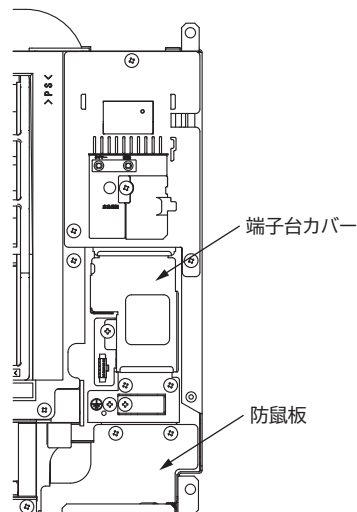
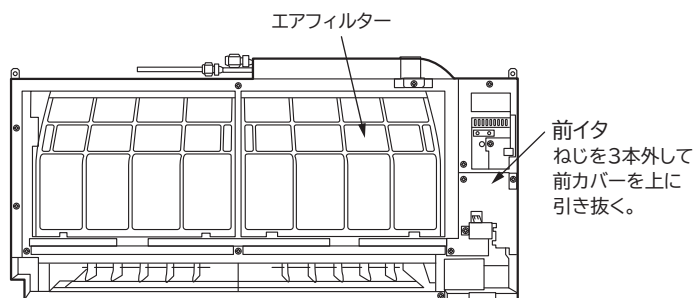
- 室内機の配管接続をやりやすくするために、配管は約150mm程度手前に動かせる状態にしてください。
- 配管の先端はゴミ、水分の浸入防止のため、密封してください。



3 室内機の据え付け

室内機の準備

- テープや緩衝材などの輸送用部品を取り外してください。
- 室内機を取り付けるため、エアフィルター、前イタ、防鼠板、端子台カバーをあらかじめ外します。

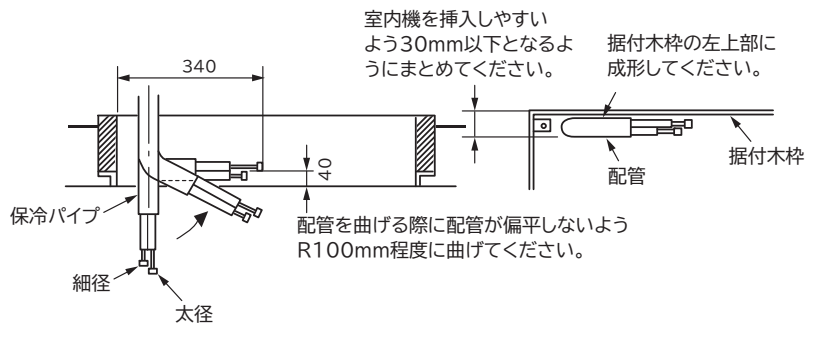
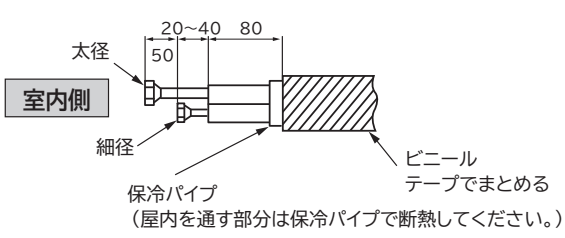


取り外した部品、ねじ等は紛失しないよう保管してください。

配管の成形

- 配管は、据付性、サービス性を考慮して成形してください。
- 配管の切断とフレア加工は、「配管の接続・エアページ」(P.7)を参照してください。

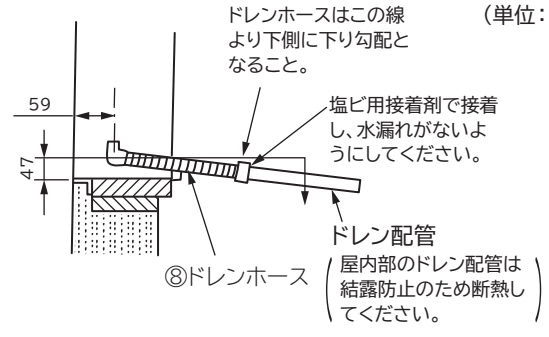
(単位: mm)



ドレンホースとドレン配管の接続

- 付属のドレンホースをドレン配管に仮接続し、ドレンホース先端が左図のようになるか確認してください。
- 短い場合はドレン配管側に塩ビ管等を継ぎ足して調節してください。
- 長くてドレンホースにトラップができたり上り勾配になるときはドレン配管側を切断して調節してください。
- ドレンホースとドレン配管とを接着剤を付けて接続します。

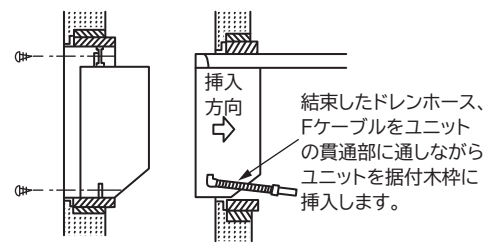
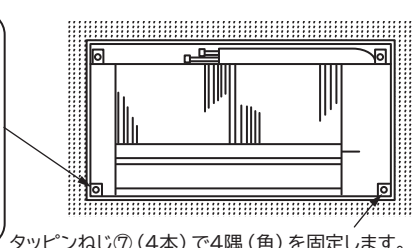
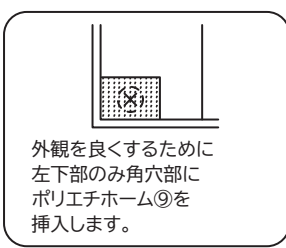
(単位: mm)



ドレンホース接続後にドレン排水がスムーズにできるか、ドレン漏れがないか確認してください。

室内機の据え付け

- 室内機を据付木枠に取り付けます。
- 室内機はドレンホース、Fケーブルの結束部を室内機の貫通穴に通しながら挿入します。このとき、貫通穴からドレンホースの先端が引き出しやすいように、ドレンホースの角度を調整して引き出してください。

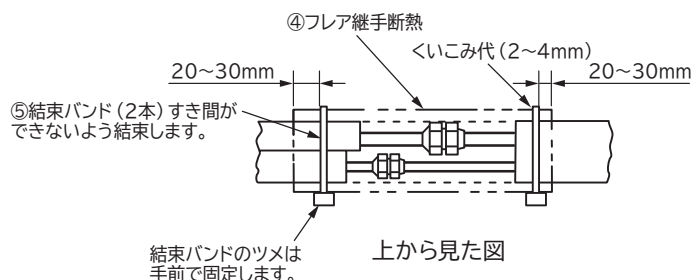
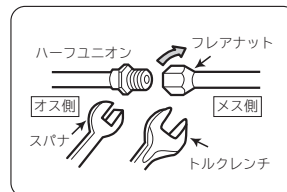
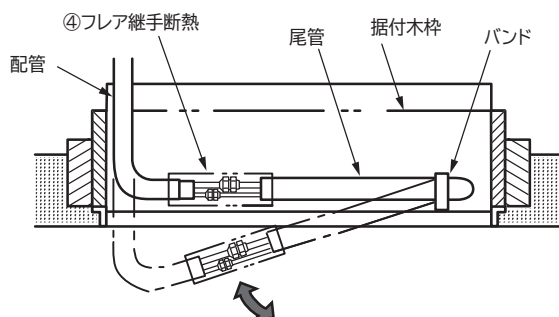


注意

- 室内機は必ず水平に据え付ける
室内機が傾いて据え付けられると、水漏れの原因になります。

冷媒配管の接続

- 前面から配管を接続します。
- 配管をゆるやかに曲げ、尾管を手前に引き出し、接続部に冷凍機油を塗り、中心を合わせフレアナットを手で十分に締め付けた後、トルクレンチ (スパナ) で確実に締め付けます。フレア加工、締め付トルクは「配管の接続・エアパージ」(P.7) を参照してください。
- 配管接続後、下図のように配管を成形し、ゆるやかに押し込みます。
- 保冷パイプが切れないようご注意ください。切れますと露付きの原因となります。



注意

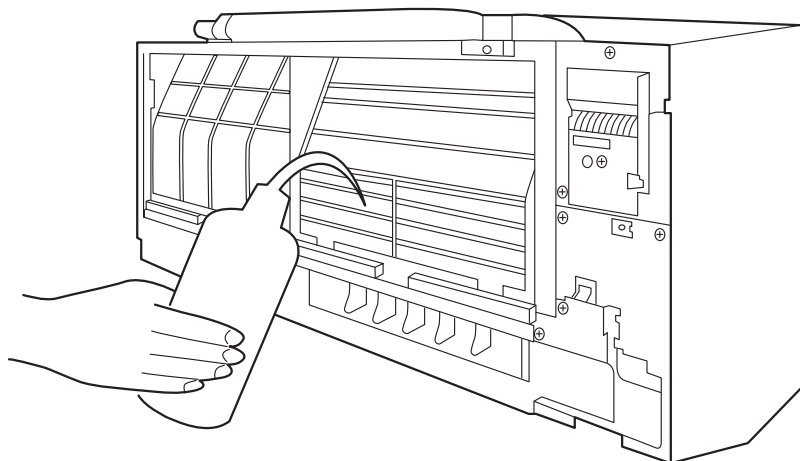
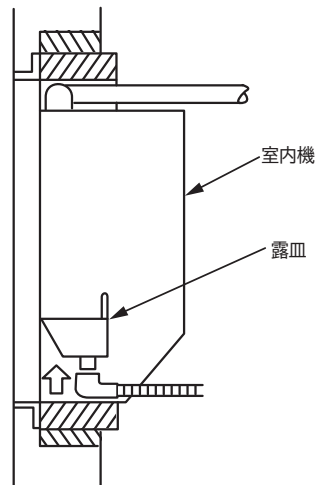
- 断熱材はすき間のないように確実に取り付ける
また、結束バンドは、締め過ぎると断熱材の断熱効果がなくなり、断熱材の表面に露が付くため締め過ぎないようにする
断熱材の取り付け方が悪いと、露が滴下する原因になります。
- 室内機の配管のフレアナットを外す場合は、細径側パイプを先に外す
太径側から外すと、フレア部のシールキャップが飛ぶことがあります。

ドレンホースの室内機への接続

- 前カバーを外した状態で、ドレンホースは露皿のドレン口に確実に挿入してください。

排水および水漏れ確認

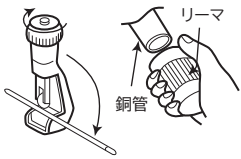
- 室内機を据え付け、Fケーブルを接続してからフィルターを外してから露皿に水さしなどで注水し、確実に排水されることを確認してください。(確認を怠ると水漏れの恐れがあります。)
Fケーブルの接続はP.8を参照してください。



配管の接続・エアパージ

1 配管の切断とフレア加工

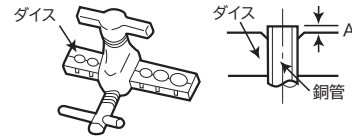
- パイプカッターで切断し、バリ取りを行います。



注意

- バリ取りをする
バリ取りをしないとガス漏れの原因になります。
- 切粉が銅管内に入らないように、バリ取り時には銅管を下向きにする

- フレアナット挿入後フレア加工をしてください。



※R410A用専用工具の使用を推奨します。

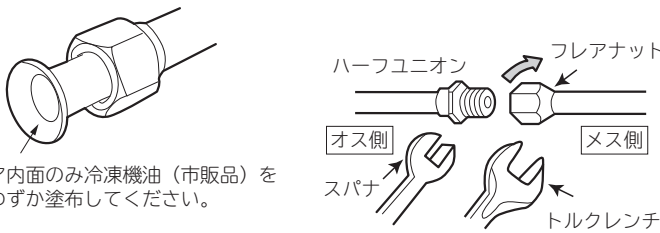
肉厚	冷媒配管 ●市販の材料を使用する場合は、次のことを守ってください。	
	φ6.35 (1/4インチ)	φ9.52 (3/8インチ)
材料および規格	リン脱酸銅 C1220T JISH3300 (付着油量:40mg/10m以下)	
断熱材	●耐熱発泡ポリエチレン 比重0.045 肉厚8mm以上 ●接続配管は1本毎に各々断熱してください。	

薄肉管 (肉厚0.7mmなど) は、使用しないでください。

外径 (φ)	A (mm) [リジット]	
	R410A用専用工具の場合	R22用専用工具の場合
6.35 (1/4インチ)	0~0.5	1.0
9.52 (3/8インチ)		

2 配管の接続

※締め付けトルクは右表に従ってください。



フレア内面のみ冷凍機油 (市販品) をごくわずかに塗布してください。

- 室内機の配管からフレアナットを外します。この時ハーフユニオン (オス側) をスパナで固定しながらフレアナット (メス側) をスパナで外します。
- 曲げ加工は配管をつぶさないようにしてください。
- 中心を合わせフレアナットを手で十分締め付けた後、トルクレンチ (スパナ) で確実に締め付けます。接続部 (フレアの内側) に冷凍機油 (市販品) を塗ることをお勧めします。

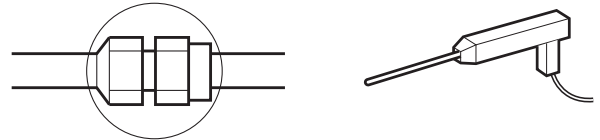
	パイプ外径 (φ)	トルクN・m {kgf・cm}
細径側	6.35 (1/4インチ)	13.7~18.6 {140~190}
太径側	9.52 (3/8インチ)	34.3~44.1 {350~450}

注意

- 室内機の配管のフレアナットを外す場合は、細径側パイプを先に外す
太径側から外すと、フレア部のシールキャップが飛ばすことがあります。
- 接続部から水分が入らないようにする
- フレアナットは必ずトルクレンチを使用し、指定の締め付けトルクで締め付ける
フレアナットを締め付け過ぎると長期経過後、フレアナットが割れて冷媒漏れの原因になります。
- 冷凍機油はフレアの外面には塗らない
フレア外面に冷凍機油を塗ると、フレアナットの締め付け過ぎとなり、フレアナットが割れたり、フレア部が破壊されて冷媒漏れの原因になります。

エアパージ

- 全体の配管接続が終了したらエアパージを行ってください。詳しくは、室外機に付属の据付説明書をご覧ください。

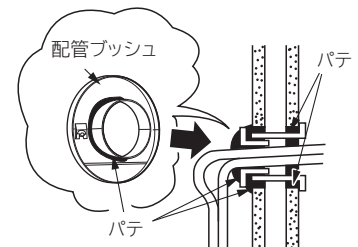


ガス漏れ検査

- 右図の部分をガス漏れ検知器を使用してフレアナット接続部などから冷媒漏れがないことを確認します。漏れのある場合は、増締めするなどして、処置してください。(R410A用検知器をご使用ください)

3 配管の断熱と仕上げ

- 配管・Fケーブル等をテープ巻きし、固定します。
- テープは締め過ぎないように巻きます。すき間があたり締め過ぎたりすると露たれの原因となります。
- ドレン配管や冷媒配管が押入れや廊下など室内を通る場合は、露付き防止のため保冷パイプ (サービスパーツRAP-284AX2 020) で覆い断熱の強化をしてください。
- 壁穴部と、ブッシュ・配管のすき間を [配管カバー (市販品) を使用した場合も] パテにて完全にシールしてください。シールが不完全ですと、壁内や室外の高湿空気が浸入し、露たれの原因になります。また、壁内や室外の臭いが室内に浸入する原因になります。

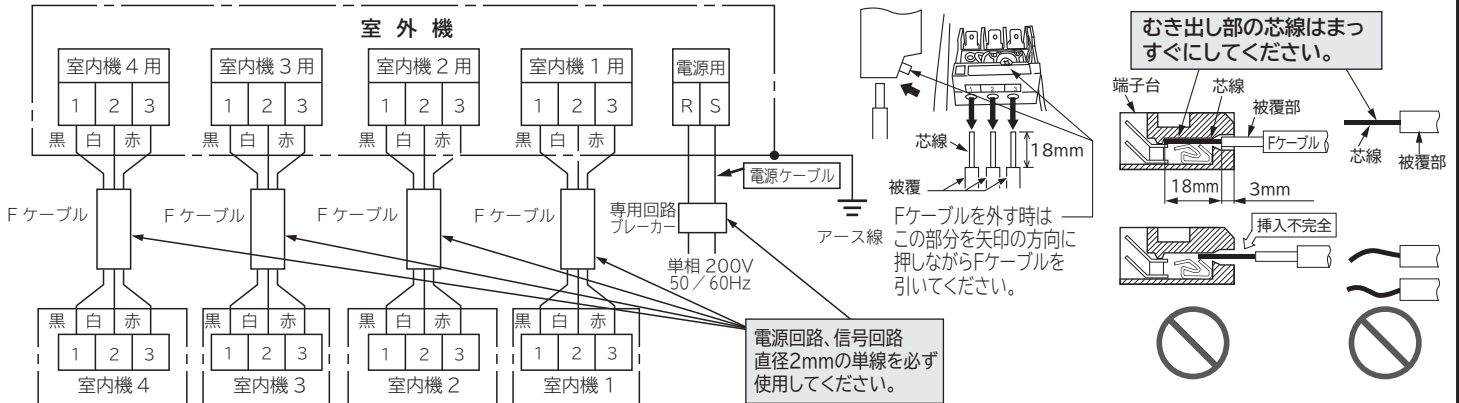


Fケーブルの接続

Fケーブルの接続方法

●電源は単相200Vを使用してください。

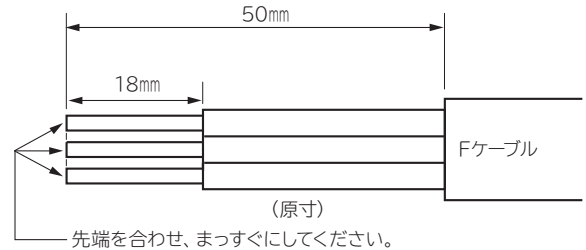
●同一室内機の冷媒配管とFケーブルは、室外機サービスバルブの室内機名(例:室内機1)と端子台の室内機名を合わせて接続してください。



※上の図は室外機が4室マルチの場合の接続を表しています。詳しくは室外機の据付説明書を参照してください。

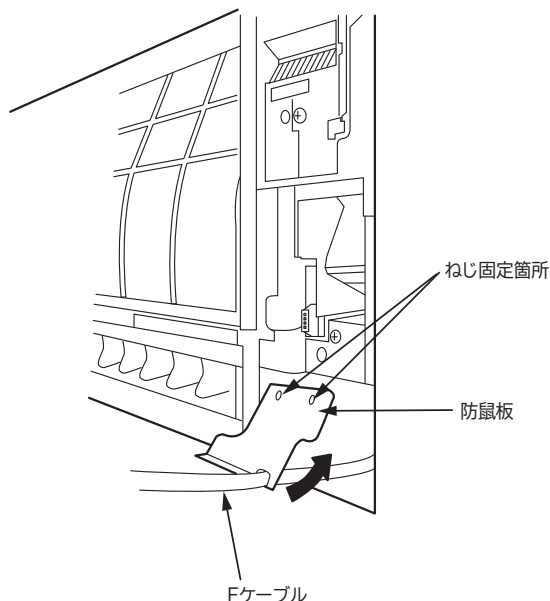
警告

- Fケーブルは、必ず直径2mmの単線を使用する
より線を使用しますと、故障や発熱・火災の原因になります。
- Fケーブルを途中で接続しない
接続部が過熱し、火災・感電の原因になります。
- Fケーブルの芯線は18mm(最小でも17mm、最大でも20mm)
むき出し、芯線がかくれるまで確実に押し込み、各々の線を引っ張って抜けないことを確認する
挿入が不十分であったり、むき出し寸法が17mm以下ですと接触不足により、故障や発熱・火災の原因になります。
- Fケーブルの芯線は先端を合わせ、まっすぐにする
- 分岐回路はエアコン専用の回路にする
- Fケーブルの取付工事は「電気設備に関する技術基準」に従って行う



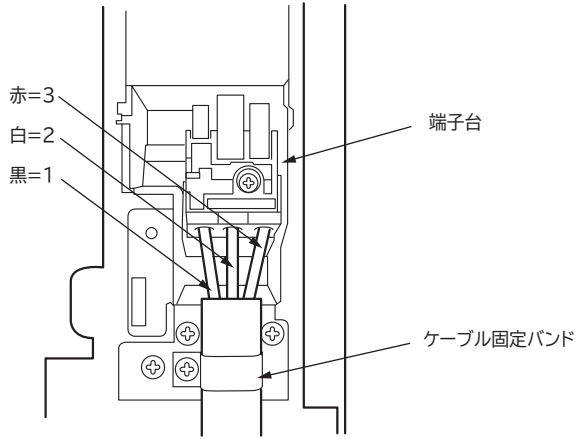
室内機への接続方法

- Fケーブルを接続する前に、防鼠板を取り付けます。
右図のように防鼠板の切欠き部にFケーブルを合わせ、ねじ2カ所で固定します。



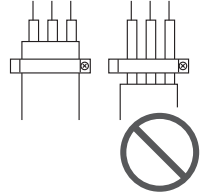
Fケーブルの接続 (つづき)

- 端子台にFケーブルを接続し、必ずケーブル固定バンドで固定してください。
ケーブル固定バンドを固定した後、Fケーブルが手前にふくらんでいるときは、前イタとの接触を防ぐため、接続部に外力が加わらない程度に、Fケーブルを押し込んでください。

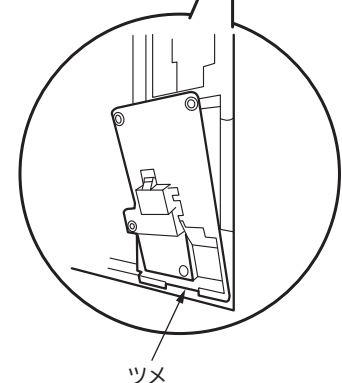
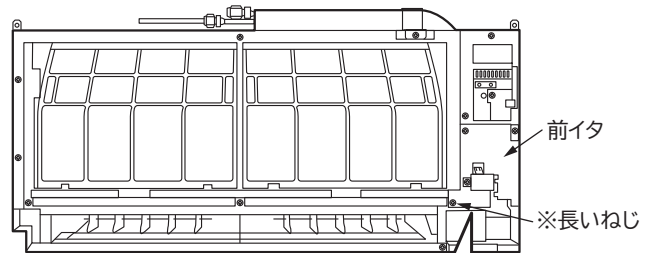
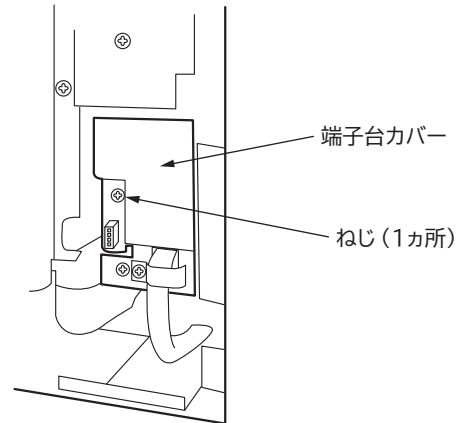


警告

- Fケーブルはサービス時の作業性を考慮して余裕を持たせて、必ずケーブル固定バンドで止める
- ケーブル固定バンドで止めるときは、Fケーブルの外側の被覆部の上から確実に止め、接続部に外力が加わらないようにする
Fケーブルの接続部に外力が加わると、発熱や火災などの原因になります。
- 取り外した端子台カバーは工事後、必ず取り付ける



- 室内機の据え付け時に外した部品を取り付けます。
 - 1.エアフィルターを取り付けます。
(エアフィルターの「前」表示を手前にしてください。)
 - 2.端子台カバーを取り付けます。(ねじ1カ所)
 - 3.前イタを右図のように下部のツメを合わせ、ねじ3カ所で固定します。



仕 上 げ

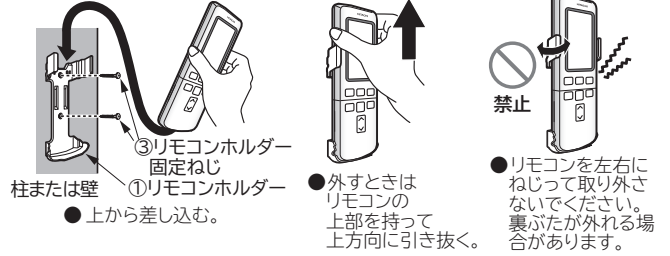
1 リモコンの固定

- リモコンはリモコンホルダー①で壁や柱に固定することができます。
- リモコンを固定したままエアコンを操作するときは、信号がエアコンに確実に受信されることを確認してください。
なお、蛍光灯により影響され信号が受信されなくなることがありますので、昼間でも点灯して確認してください。
- 電子点灯形の照明器具がある場合は、受信距離が短くなること
があり、場合によっては信号を受け付けないことがあります。

注意

- リモコンホルダーは事前に取付場所から「運転」と「停止」ができることを確認してから取り付けしてください。
- 吹き抜けなどにより、室内機上部の天井が高い場合やリモコン取付具の取付場所によっては、取り付けたままで「運転」や「停止」ができないことがあります。

取り付けかた

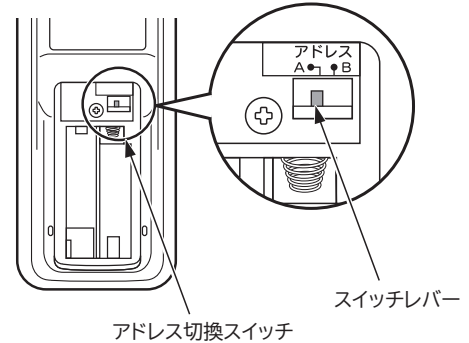


アドレス切換スイッチについて

2台の室内機を同じ部屋に据付けたときなど、リモコンの混信を防ぎたいときに使用します。

アドレス切換スイッチは、リモコンの電池ケースふたを外したところにあります。(出荷時は「A」側に設定されています。)

- アドレス設定 (混信防止) の方法
2台の室内機のうち、1台について設定を行います。
□ リモコンに乾電池を入れ、リセットスイッチを押します。
(取扱説明書を参照してください。)
☑ リモコンを組み合わせた室内機の受信部に約5cmまで近づけた状態でアドレス切換スイッチのスイッチレバーを「B」側に動かします。この時、他方の室内機が受信しないようにしてください。
☑ 「ピッ」という受信音がして、設定が終了します。
- アドレス設定後、リモコン操作をして動作することを確認してください。
動作しない場合は、スイッチレバーを「A」側に戻し、再度設定操作を行ってください。



2 アースと漏電遮断器

このエアコンは必ずアース工事をしてください。

アース工事は「電気設備に関する技術基準」に従って実施してください。
万一の感電事故を防止するほか、製品に触れたときに感じる静電気の障害や、リモコン操作時にテレビ・ラジオに入る雑音を防ぐ効果もあります。

接地の基準

接地の基準はエアコンの電源電圧および設置場所により異なります。
下表により接地工事を行ってください。

電源の条件	エアコンの種類	エアコン設置場所	水気のある場所に設置する場合	湿気のある場所に設置する場合	乾燥した場所に設置する場合
対地電圧150V以下の場合	100Vの機種(含单相3線式200Vの機種)			D種接地工事が必要です。(注)	D種接地工事は法的には除外されていますが安全のため接地工事をしてください。
対地電圧150Vを超える場合	3相200Vの機種(含单相2線式200Vの機種)		漏電遮断器を取り付けさらにD種接地工事が必要です。(注)		

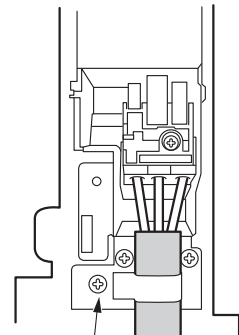
D種接地工事について(注)

- 接地工事は電気工事士の方が行ってください。
- 接地抵抗は100Ω以下であることを確認してください。
ただし漏電遮断器を取り付けた場合は500Ω以下であることを確認してください。

警告

- 室外機または室内機のどちらか一方から必ずアースを行う
アース端子は室外機の端子台近傍についています。
なお右図のように室内機にもアースを接続できる接続できるようになっていますが、なるべく室外機でアースを行ってください。
- アース線は、次のようなところに接続しない
 - ① ガス管…引火や爆発のおそれがあります。
 - ② 避雷針・電話のアース線…落雷のとき、大きな電流が流れるおそれがあります。
 - ③ 水道管…塩ビ管ではアースの役目を果たしません。
また、金属管では電蝕のおそれがあります。
- お客様にご説明の上、アース(接地)を行う
- 室内機からアース(接地)を行う場合は、直径1.6mmの単線(軟銅線)を使用し、確実に固定する

室内機にアースを付ける場合



アース端子
アースを接続するときは端子台カバーを外して行います。

前面グリル

1 取り付け前の確認

前面グリルを取り付ける前に次のことを確認してください。

- 室内機が水平に据え付けられていますか？



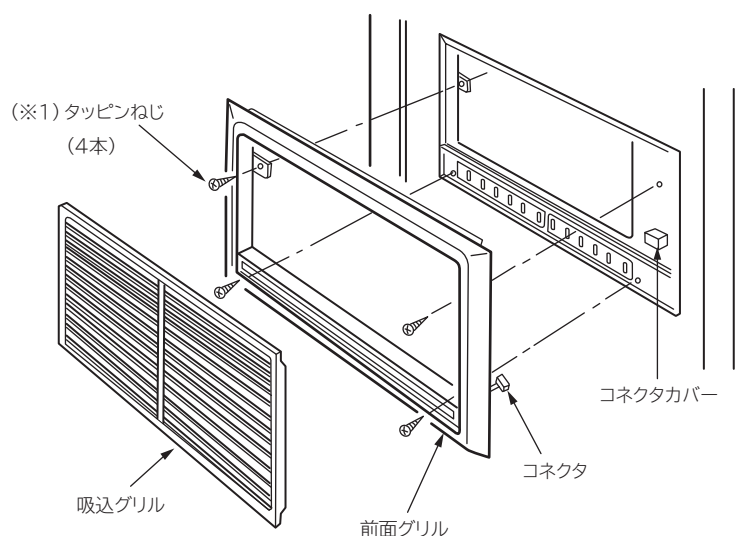
注意

- 室内機は必ず水平に据え付ける
室内機が傾いて据え付けられると、水漏れの原因になります。

- ドレン排水チェックをしましたか？
- 冷媒配管・ドレン配管などの断熱、Fケーブルの仕上げは完了しましたか？

2 前面グリルの取り付け

- 前面グリルより吸込みグリルを取り外します。
(吸込みグリルを持ち上げ下側の枠の溝から外し、手前に引きます。)
(次に吸込みグリルを下げて上側の溝から外し、取り外します。)
- 前面グリルを付属のタッピンねじ4本で固定します。
前面グリルから出ている上下風向板モーターリード線は、前面グリルの枠の中に入れてください。
- 前面グリルの吹き出し部、吸込み部の周囲は室内機とシール材が密着しているか、確認してください。
(すき間があると、露垂れやショートサーキットの原因になります。)

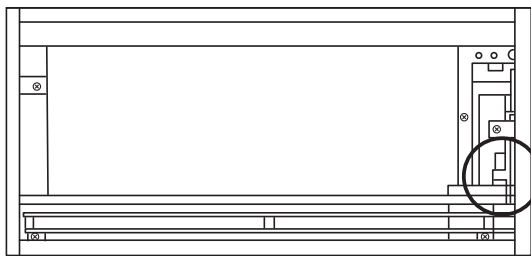


(※1) タッピンねじは、別売部品の前面グリルに同梱されています。

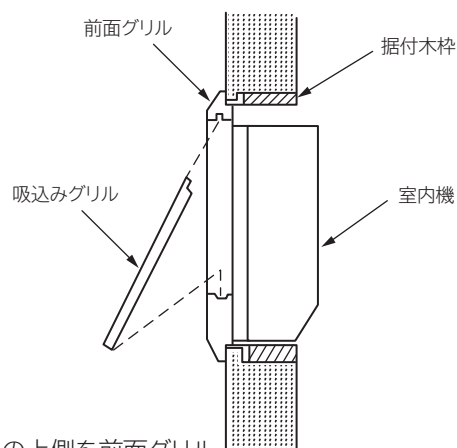
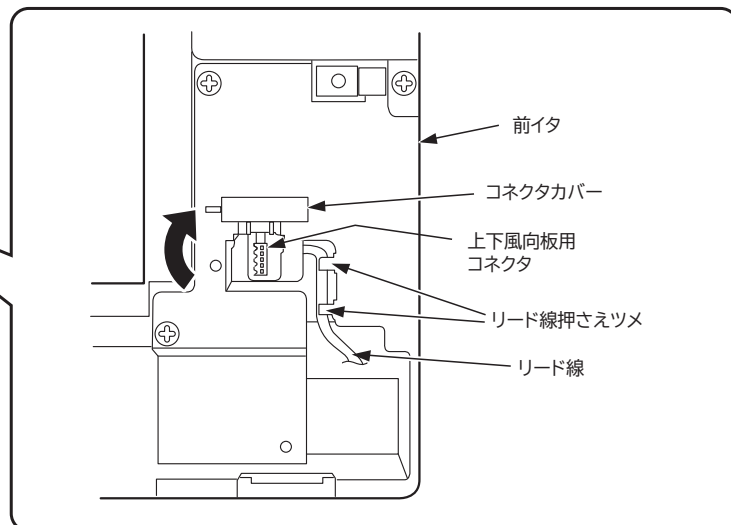
(※2) 上の図は前面グリル (RAJ-FGF1) を例にしています。

前面グリル(つづき)

3 コネクタおよびリード線のまとめ



- コネクタカバーを固定しているねじ(1カ所)を取り外し、前面グリルの上下風向板モーターリード線を上下風向板用コネクタに接続します。
- リード線はリード線押さえのツメの下に押し込みます。リード線押さえツメの下へ押し込まずに前面グリルを取り付けますと、グリルのシール材にすき間ができ、露垂れの原因になります。
- コネクタカバーをねじ(1カ所)で固定します。
- 前面グリルに吸込みグリルを取り付けます。



吸込グリルの上側を前面グリルの上側の溝へ差し込んだ後、下側を溝に合わせて取り付けます。

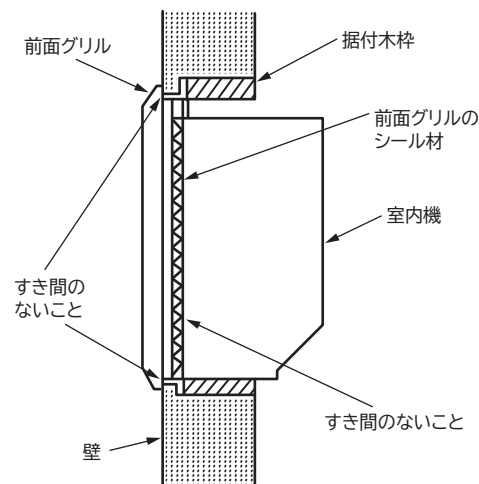
4 取り付け後の確認

- 前面グリルと室内機の間、前面グリルと壁面との間にすき間がありませんか？

注意

- すき間がないように取り付ける
すき間があると露が滴下する原因になります。

- 前面グリルと室内機の間、前面グリルと壁面との間にリード線がはさまれていませんか？
- エアフィルターは正しく装着されていますか？
- 試運転を行いエアコンが正常に運転することを確認してください。
(上下風向板の動作、リモコンの受信など)



試 運 転

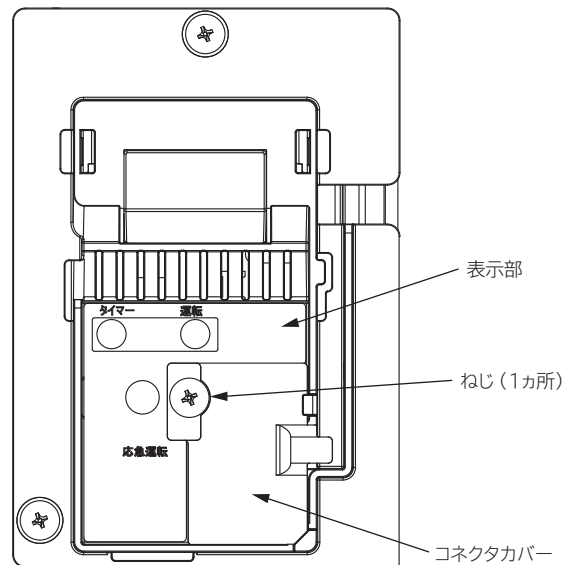
電源投入前に室内機用端子台黑白間に短絡のないことを確認してください。
短絡した状態で電源を入れると室外基板のヒューズが溶断しますのでご注意ください。室外機の処置方法については室外機の据付説明書をごらんください。

試 運 転

- 試運転は必ず1台ずつ運転し、正常に運転することを確認してください。冷媒配管とFケーブルの接続違いを発見しやすくするため、できるだけ冷房運転で1台ずつ試運転してください。設定温度は、冷房の場合16℃、暖房の場合32℃に合わせてください。
- 取扱説明書で「お客様」に操作の説明をしてください。
- 排水および水漏れの確認を行ってください。
(「排水および水漏れの確認」の項参照)

据え付けチェック

- P.16の「ルームエアコン据付点検カード」によりチェックします。
- 表示部の保護シートを取り外してください。
表示部の保護シートは、表示部と表示部右下のネクタカバーに挟まれているので、一度ネクタカバーを取り外します。保護シートを取り外したら、ネクタカバーを元の位置に取り付けてください。



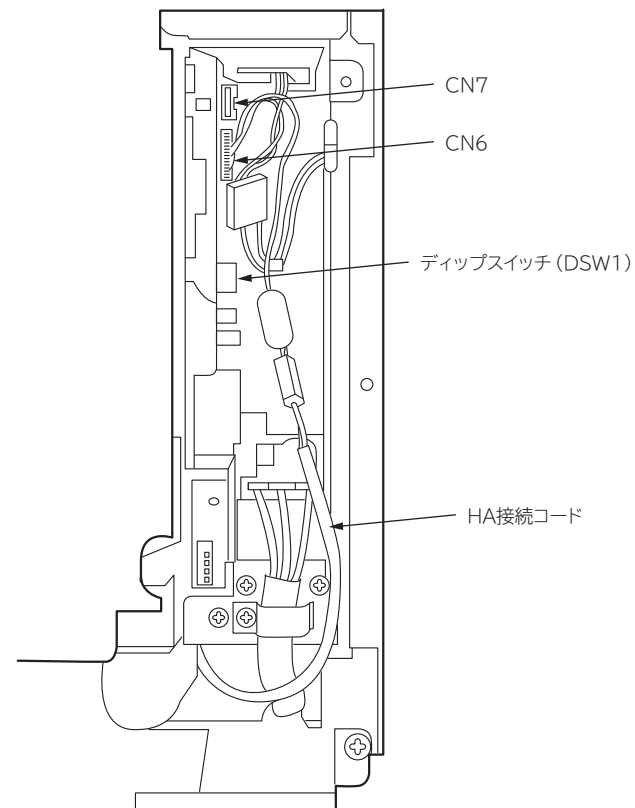
⚠ 注意

- サービスバルブのスピンドルを閉めた状態で5分以上運転しない
故障の原因になります。
- 冷房・除湿運転時、窓や戸を開放した状態(部屋の湿度が80%を超えたまま)などで長時間運転をしない
露が落ちて家財を濡らす原因となることがあります。
- 新築や改築時にお部屋の乾燥に使用しない
エアコンの機能や性能の低下及び上下風向板に露がつき、露が落ちて家財を濡らす原因になることがあります。

HAシステム・H-LINK・カードキーと接続するとき




- HAシステムと接続するには別売のHA接続コード〔SP-HAC1〕が必要です。
- H-LINKと接続するには、別売のRACアダプターが必要です。
- エアコン側の運転の種類を「自動」に設定しているとき、H-LINKのコントローラー側で設定した温度表示が自動的に変わることがあります。これは、エアコン側で自動的に設定した温度をコントローラー側に送信して表示するもので、故障ではありません。
- カードキーと接続するには別売のカードキー接続コード〔SP-CKC1〕が必要です。

- 化粧カバー、電気品フタを外し、配線を接続します。
〔HAシステム・カードキーはCN6、RACアダプターはCN7に接続してください。〕
- ディップスイッチの設定は、「ディップスイッチの設定」(P.16)を参照してください。
- HA接続コードをはわせ、Fケーブルに結束バンドで縛ります。
- 詳しくはそれぞれ付属の取扱説明書、またはRACアダプター付属の据付点検要領書とあわせて、お読みください。
- 前面グリルの外しかた・取り付けかたは本説明書で確認してください。



ディップスイッチ (DSW1) の設定

- ・カードキー機能選択はディップスイッチで行います。
- ・ディップスイッチは電源が切れている状態で設定してください。
- ・誤動作の原因となりますので下記以外の設定では使用しないでください。

通常	カードキー機能選択 (a接点)	カードキー機能選択 (b接点)
※工場出荷時  全てOFF	 2のみON	 2と3ON

お客様氏名	様	
(電話番号)	()	
お客様住所		
機種名	製造番号	
据付年月日	据付担当者	

ルームエアコン据付点検カード

(点検済みの項目の口の中に✓印を記入してください。)

- 配管はR410A用を使用しましたか
- 真空引きを、行いましたか
- 輸送部品は、全てはずしましたか
- 配管接続部のガス漏れはありませんか
- 接続ケーブルの接続は正しく確実ですか
- 除湿水は漏れずに、よく排水しますか また、露受皿に除湿水がたまらないような傾斜で据え付けられていますか
- 配管接続部の断熱はしましたか
- 据付強度はじゅうぶんですか
- 前面グリル・吸込グリルは確実に取り付けられており、落下の危険はありませんか
- 電源は、専用回路に接続しましたか
- アースは正しくしてありますか
- 壁穴が壁を貫通する場合、保護パイプをつけましたか
- 壁穴部のシールは確実にしましたか
特に、埋込配管で大きな壁穴のとき、シールを確実にしましたか
- 試運転をして、異常はありませんか
- 冷気または暖気が、吐出口からでましたか
- 異常音は、出ていませんか
- 取扱説明書の表紙に記載された型式名のうちの、据え付けた型式名の前に○印を付けましたか
(取扱説明書が2機種以上の共用になっている場合)
- お客様に正しい取り扱い方と、運転のしかたを説明しましたか
- リモコンの設定はしましたか

サービス記録

年月日	サービス内容	サービス担当者

キリトリ線から切りはなし、据付時の点検、サービスの記録として、お店で保管、ご使用ください。